

令和2年7月22日

後期栄養を確保し 品質向上!

長岡農業普及指導センター
稲作情報No. 6

電話 0258-38-2554
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

7月20日現在の葉色は、指標値に比べてやや濃いものの、平場を中心に急速にさめてきており、後期栄養不足が懸念されます。

- 2回目穂肥は確実に施用しましょう。
- 高温が予測され、2回目穂肥以降も葉色が薄い場合は、走り穂が出る頃までに追加穂肥の施用を検討しましょう。
- 出穂期25日後まで飽水管理を徹底しましょう。

1 穂肥による後期栄養確保

- (1) 葉色が淡く1回目穂肥が未施用の場合は、ただちに施用しましょう。
- (2) 2回目穂肥は確実に施用しましょう。
- (3) 高温が予測される場合は、追加(3回目)の穂肥施用を検討しましょう。

表 コシヒカリ追加穂肥のめやす

	栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
分 施	一般栽培 (化学肥料体系)	出穂期3日前の葉色 SPAD値 31以下のとき	出穂期3日前に 窒素成分 1 kg/10 a 以下	化成 肥料
	特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値 33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分 1 kg/10 a 以下	有機 100% 肥料
基 肥 一 発	一般栽培 (化学肥料体系)	出穂期までの葉色 SPAD値 32～33を下回 ると予想されるとき	出穂期3日前まで 窒素成分 1 kg/10 a 以下	化成 肥料
	特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂10日前頃の葉色 SPAD値30以下のとき	出穂期10～5日前 窒素成分 2 kg/10 a 以下	有機 100% 肥料

2 病虫害対策

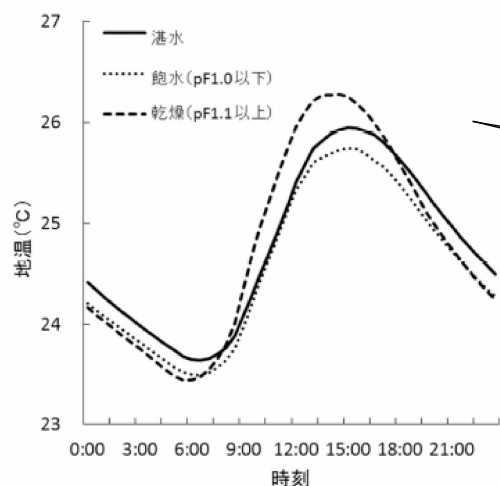
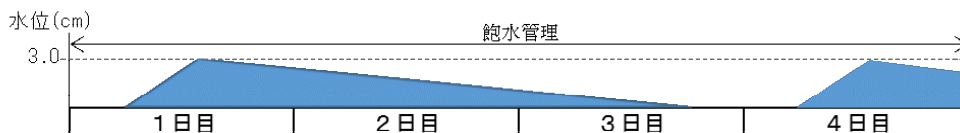
- (1) 斑点米カメムシ類の防除は、剤型に応じた適期の薬剤散布を実施しましょう。
また、農道・畦畔の除草及び水田内雑草の除去を徹底しましょう。
- (2) 葉いもちの発生が各地で確認されています。発生を確認したらただちに防除を実施しましょう(コシヒカリBLで少発生の場合は除く)。
- (3) 穂いもち防除は、適期に実施しましょう。

3 今後の水管理

※かけ流し等を行わず、限りある用水を有効に使いましょう

(1) 通常時の水管理

出穂・開花期は、稲が最も水を必要とする時期です。通常時は、飽水管理（田面の水がなくなり、足跡や溝の水がなくなる前にかん水する）を徹底しましょう。



飽水管理は日中および夜間の地温の上昇を抑える

左図 登熟期の水管理方法別の地温の経時変化
 出典 農業総合研究所作物研究センター
 平成27年度研究成果情報

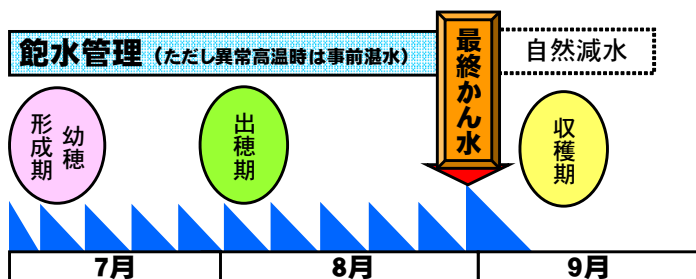
(2) 異常高温時の水管理

異常高温・フェーン時には、稲体からの急激な蒸散による障害の発生を防止するため、地域の用水事情に応じて湛水しましょう。また、フェーン通過後は長期間の湛水は避け、飽水管理へ移行しましょう。

フェーンが2日以上続く場合は、ほ場の水温上昇を抑えるこまめな水管理を行いましょう。

(3) 最終かん水は出穂の25日後以降

早期落水は、下位葉の枯れ上がりや倒伏を助長し、品質・食味が低下します。最終かん水日は出穂25日後以降とし、暗渠栓の開放は可能な限り遅くしましょう。



左図 今後の水管理のイメージ
 (コシヒカリの場合)

農作業事故、熱中症に注意しましょう。